

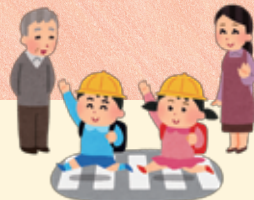
大分市道徳指導
ハンドブック

魅力ある 道徳授業の展開

～「特別の教科 道徳」(道徳科)の実施に向けて～

平成30年3月
大分市教育委員会

道徳科の実施に向けて



道徳教育の目標(新学習指導要領 第1章 第1の2の(2)より)

教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己(人間として)の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

※()内は中学校

特別の教科 道徳の目標(新学習指導要領 第3章 第1より)

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※()内は中学校

改正のポイント

[本資料の関連ページ]

教材について.....P2~4

- ◆ 教育基本法や学校教育法等に従い、発達の段階に即し、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないことなどの配慮事項を明記

指導の配慮事項について.....P5~6

- ◆ 問題解決的な学習、体験的な学習等の指導方法の工夫
- ◆ 情報モラル、環境、科学技術と生命倫理等に関する事柄を追加
- ◆ 家庭や地域社会との連携による指導

評価について.....P7

- ◆ 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握(数値評価を行わないことは従前と同様)

内容項目について.....P8

- ◆ 「自分自身」、「人との関わり」、「集団や社会との関わり」、「生命や自然、崇高なものとの関わり」の視点により、構造化・体系化
- ◆ 内容項目に応じたキーワードの付記
- ◆ いじめの問題への対応の充実

答えが一つではない課題に道徳的に向き合い、「**考え、議論する道徳**」への転換により、児童生徒の道徳性を育むことを重視

- 主体的に自分との関わりで考える
- 自分の考え方、感じ方を明確にする

考える 議論する

- 多様な考え方、感じ方と出会い、交流する
- 新たな気づきや学びを見いだす

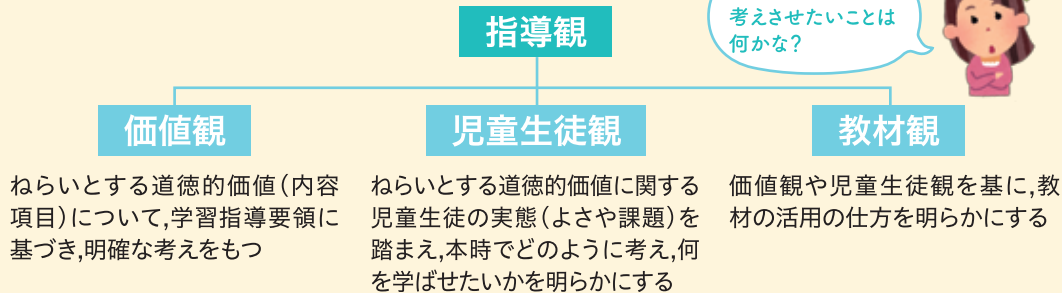
授業づくりの手順～「考え、議論する道徳」に向かって～

はじめに

各学校の重点を踏まえて作成した年間指導計画を基に、指導の内容を確認するとともに、教科書を主たる教材として扱います。

授業の構想

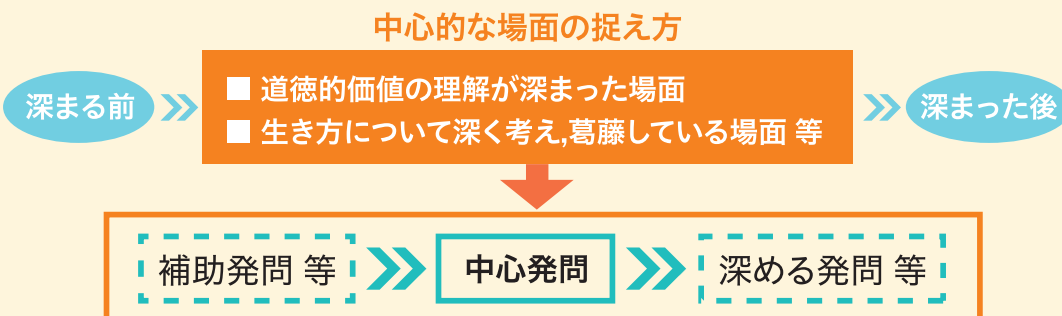
道徳的諸価値の理解を深めるために、指導観（価値観、児童生徒観、教材観）を明確にした授業を構想することが大切です。



教材の分析

児童生徒に考えさせたい道徳的価値が含まれた中心的な場面を捉え、問いを設定することが大切です。

登場人物の道徳的価値の理解の深まりで考えてみると…



P3,P4参照 →

授業展開の工夫

物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせたり、自己（人間としての）生き方についての考えを深めさせたりすることが大切です。※（ ）内は中学校

- 導入の工夫**
- アンケート等を活用し、主題に関わる問題意識をもたせたり、挿絵や紙芝居など教材の提示を工夫し、教材の内容に興味や関心をもたせたりしましょう。
- 展開の工夫**
- 一人一人の考え方や感じ方を交流し、自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自己を見つめたりする学習に心掛けましょう。
 - 交流活動や表現活動を工夫する際は、活動を取り入れる目的を明確にしましょう。
- 終末の工夫**
- 児童生徒一人一人が、本時の学習を通して、これからへの思いや課題などを考えたり、自らの成長を実感したりするようにしましょう。

授業

評価・改善

児童生徒の学習状況を把握して評価することを通して、改めて学習指導過程や指導方法について検討し、今後の指導に生かすことが大切です。

道徳科の授業展開例

道徳科の特質を生かした学習指導

▶ 多面的・多角的に考える指導について

Point 物事を一面的に捉えるのではなく、児童生徒一人一人が道徳的諸価値の理解を基に様々な視点から事象を理解し、主体的に考えることができるようにすることが大切です。

- わがままをしないことの「大切さ」と「難しさ」の両面から考えさせよう
- 「親切、思いやり」に関わって「友情」や「公正、公平」についても考えを広げていこう
- おおかみの気持ちについて、[くまへのあこがれ][反省・後悔][親切・思いやりへの気付き]等、道徳的諸価値に基づいた考え方や感じ方を類型化して話し合わせよう



本時案の例1 小学校及び義務教育学校前期課程

- 主題名 やさしいところ 道徳の内容 B-(6) 親切、思いやり
- 教材名 「はしのうえのおおかみ」(出典:光文書院「ゆたかな道徳 1年」)
- ねらい 「くま」の後ろ姿を見ている「おおかみ」の気持ちについて考えたことを、[くまへのあこがれ][反省・後悔][親切・思いやりへの気付き]等に注目して話し合わせることで、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育てる。

● 本時の展開

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入	① 自分が親切にもらったときのことを振り返る。	○ 親切にもらったことやそのときの気持ちを出させ、本時に扱う道徳的価値へ興味・関心をもたせる。	自分との関わり
展開	② 資料を読み、意地悪をしていたときのおおかみの気持ちを考える。	○ 資料を範読し、内容を整理する。 ・登場人物 ・場面の様子 「もどれもどれ」と言って動物たちを追い返したとき、おおかみはどんな気持ちだったでしょうか。 <予想される児童の考え> ・えへん、へん。王様みたいで気持ちがいいぞ ・通せんぼは楽しいな ・僕が一番強くて偉いぞ	自分との関わり 多面的 多角的
	③ くまに出会ったときのおおかみの気持ちを考え、話し合う。	○ くまと出会ったときのおおかみの気持ちを考えさせる。 ・教師がくま役、代表児童がおおかみ役になって役割演技をし、場面を把握させる くまの後ろ姿を見ていたおおかみは、どんなことを考えていたでしょうか。 [くまへのあこがれ] ・くまさん、かっこいいな ・すごいな ・ありがとう ・うれしい [反省・後悔] ・やさしくすればよかった ・意地悪だったな ・ぼくにはできない [親切・思いやりへの気付き] ・ぼくもやってみよう ・くまさんのように僕もやさしくしたいな	
終末	④ うさぎに親切にしたときのおおかみの気持ちを考え、話し合う。	○ 進んでうさぎに親切にしたときのおおかみの清々しい気持ちに共感させる。 うさぎを抱き上げてそっとおろしたとき、おおかみはどんな気持ちだったでしょうか。 ・児童同士でおおかみ役とうさぎ役になり、役割演技をして感想を交流させる	自分との関わり 多面的 多角的
	⑤ 振り返りをする。	○ 本時の学習を振り返り、おおかみに手紙を書かせる。 ・自分事として捉え、ねらいとする道徳的価値が含まれている考えの児童に発表させる	



補助発問

登場人物の行為を自分のこととして捉えさせ、中心発問につなげる発問

人間理解 他者理解

中心発問

3層程度の多様な考え方や感じ方を引き出す発問

価値理解 人間理解 他者理解

深める発問

本時のねらいとする道徳的価値により深く迫ることができる発問
※自己の生き方について考えを深める発問

価値理解 他者理解

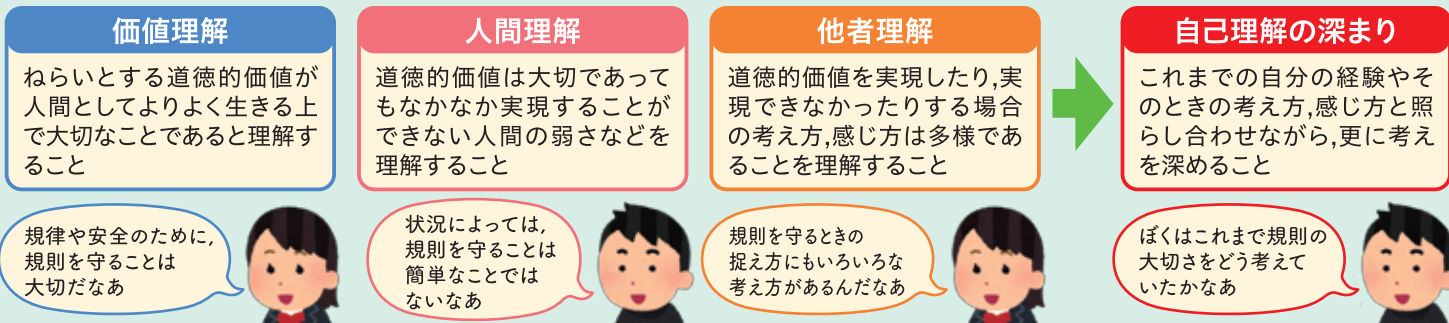
終末は、ねらいとする価値について整理、確認し、より意識化させる役割を担っています。教師の説話、感想や考えの記述、詩の紹介など活動を工夫し、余韻を残す終末にしましょう。



自己理解

▶ 道徳的諸価値の理解について

Point 児童生徒が道徳的諸価値を実感を伴って理解するために、**自分との関わり**で考えたり感じたりで
 できるようにすることが大切です。1時間の授業の中に、以下の3つの理解を位置付けましょう。



本時案の例2 中学校及び義務教育学校後期課程

- 主題名 法や規則を守る 道徳の内容 C-(10) 遵法精神、公德心
- 教材名 「二通の手紙」 (出典:文部科学省「私たちの道徳」)
- ねらい 元さんの行為について考えたことを[姉弟への思いやり][周囲の人への迷惑][規則を守ることの意義]等に注目して討議形式で話し合わせることで、規則を遵守し、確実に義務を果たすことにより、よりよい社会をつくろうとする道徳的判断力を育てる。

● 本時の展開

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入	①「規則を守ること」について、これまでの自分を振り返る。	○ 事前アンケートの結果を提示し、本時に扱う道徳的価値について問題意識をもたせる。 ○ 「規則を守ることには、どのような意味があるのだろうか」と問い掛ける。 ・これまで「規則を守ること」について自分がどう考えていたかをイメージさせる	自分との関わり
展開	② 資料を読み、元さんの行為について考える。	○ 資料は教師が範読し、簡単に内容を整理する。 元さんが規則違反と知りながら、幼い姉弟を入園させたのはどうしてだろうか。 [予想される生徒の発言] ・姉弟がかわいそうだ ・ちょっとくらい平気だ ○ 結果的に懲戒処分を受け、自ら辞職したことをおさえる。 元さんの行為について、どう考えるか。	多面的多角的
	③「規則を守ること」について考える。	○ ワークシートに自分の考えを書かせ、討議形式で話し合わせる。 【賛成派】 [姉弟への思いやり] ・子どもたちへの思いやりだから ・母親から感謝の手紙をもらったから 【反対派】 [周囲の人への迷惑] ・周りの人に迷惑をかけている ・事故の危険性があった [規則を守ることの意義] ・相手を思っても規則を破ると、結果的に危険な目に遭わせることになりうる ・規則を守ることが園の規律を守ることになる ○ 話し合いの中で、規則を守ることの意義に気づき始めたところで深める発問をする。 規則を守ることの意義とは何だろうか。	多面的多角的 自分との関わり
終末	④ 振り返りをする。	○ 本時について振り返ることができるよう、教師の体験談など、道徳的価値に関する説話をする。	



導入では、生活や社会的な問題から児童生徒の疑問やこだわりを生み出し、より積極的な問題意識をもつことができるような問い掛けや投げ掛けが重要です。

補助発問
 選択の余地がある場面を問い、中心発問につなげる発問

人間理解

中心発問
 教材全体の視点から捉えたテーマ性のある発問や、多様な立ち位置で問題追究ができるような発問

価値理解 人間理解 他者理解

展開では、児童生徒の考えを把握し、全体に投げかけたり、発言を同じ考えの層に視覚的に整理し、板書に位置付けたりするなど、考えを広げ深めさせましょう。

深める発問
 自分との関わりで、道徳的価値について考えることができる発問

価値理解 他者理解 自己理解

「深い学び」につなげる多様な指導

「深い学び」につなげるためには、以下に示す多様な指導方法を活用するなどして授業を構想することが大切です。なお、以下の方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。例えば、読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられます。

問題解決的な学習

どんな学習？

児童生徒の考えの根拠を問う発問や問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通して、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる学習です。

Point

- ◆道徳科における問題とは道徳的価値に根差した問題であり、単なる学級の諸問題とは異なること
- ◆児童生徒が自分の体験やそれに伴う感じ方を基に考え、話し合うことを通して、一人一人が課題に対する答えを導き出し、道徳的価値のよさや難しさを確かめるようにすること

私にとって親切とは…



僕にとって親切とは…

主な発問例

- 「何が問題になっているのだろうか？」
- 「なぜ、□□(道徳的価値)は大切なのか？」
- 「□□(道徳的価値)はどんな意義があるのか？」

問題設定

あなたにとって、本当の親切とはどのようなものだろうか。

問題追究

問題解決

私にとって、本当の親切とはこのようなものだ。

道徳的行為に関する体験的な学習

どんな学習？

役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を解決するために必要な資質・能力を養う学習です。

Point

- ◆表現活動そのものを目的とするのではなく、体験的行為を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義について考えを深めるようにすること

頭ではわかっているけど、実際にやってみると難しいなあ



体験的な学習例

- ペアやグループで挨拶や丁寧な言葉遣い等を実際にして、礼儀のよさや作法の難しさについて感じたことを伝え合う。
- 思いやりのある言葉を掛ける側と掛けられる側に分かれ、相手の気持ちや立場を考えるとはどういうことかを話し合う。
- 教材の登場人物の言動を即興的に演技して、その時の気持ちを伝え合う。



特別活動等の多様な体験活動を生かした学習

どんな学習？

体験活動の中で考えたことや感じたことを道徳科の話合いに生かすことで、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度を育む学習です。

Point

- ◆あくまでも道徳科のねらいを達成することを前提とし、学校行事や体験活動における行動目標を決めたり、取るべき行動や特定の価値観を押し付けたりするものではないことに留意すること



特別活動等を生かした道徳科の学習例

- 「よりよい学校生活」の内容項目に関する学習において、体育祭や修学旅行での経験を基に、集団の一員としての役割や責任についての考えを話し合う。
- 「社会参画」の内容項目に関する学習において、ボランティア活動や地域行事に参加した経験を基に、地域社会への愛着や貢献についての考えを書いたり伝えたりする。

道徳科に生かす指導の工夫

以下に示すもののほか、教材を提示する工夫、書く活動の工夫、説話の工夫など、道徳科に生かす指導方法は多様にあります。それらの中から、ねらい、児童生徒の実態、教材や学習指導過程等に応じて選択することが大切です。

工夫1 話し合いの工夫

児童生徒が多様な感じ方に接し相互の考えを広げ深めるために、考えを出し合う、整理する、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるように工夫しましょう。

- ◆ 座席の配置を工夫する
- ◆ ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れる
- ◆ 立場を分けて討議形式で進める 等

話し合いの基盤として、互いの考えを否定しないなどの話し合いのルールを身に付けさせるとともに、日頃から何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気をつくるのが大切です。また、自分とは異なった考えに接する中で自分の感じ方や考え方が明確になるなど、話し合いによる学習の深まりを実感させることが求められます。



工夫2 板書を生かす工夫

板書は児童生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなります。教師の伝えたい内容を示したり、学習の構造を示したり、価値の深まりに応じて発言を整理したりするなど、板書のもつ多様な機能を生かしましょう。

- ◆ 考え方の違いや多様さを対比的、構造的に示す
- ◆ ネームプレート等を使用し、一人一人の立場を明確にする
- ◆ グラフや色カード等を使用し、心情の変化を可視化する
- ◆ 展開の中心部分を浮き立たせる 等

多様な考え方や感じ方を取り入れ、児童生徒とともにつくっていくような板書を心掛けましょう。



工夫3 指導体制の工夫

道徳科の指導を計画的に推進し、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるために、指導に際して全教師が協力し合う指導体制を工夫しましょう。

- ◆ 校長や教頭などが参加する
- ◆ 他の教師とチーム・ティーチングで指導する
- ◆ 担任が交替で学年の全学級をローテーションして指導する
- ◆ 小中学校間で互見授業や合同授業研究会を行う
- ◆ 保護者にアンケートや児童生徒への手紙等の協力を得る
- ◆ 地域のゲストティーチャーなどの外部人材を活用する
- ◆ 指導案や資料、学校で開発した地域教材、掲示物などの道徳用教材を共有する
- ◆ 発達障がい等、特別な配慮を必要とする児童生徒についての配慮すべき事項等を共有する 等



道徳科の評価の在り方

教師が確かな指導観をもち、発問の意図や学習活動の目的、児童生徒の期待する学習の姿等を明確にした授業を構想した上で、児童生徒一人一人の実態に応じた評価を行うことが重要です。

【評価の基本的な考え方】

- 数値による評価ではなく、**文章記述**とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまりを踏まえた評価**とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒が**いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること
- 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

※出典：「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）H28.7

児童生徒の道徳性に係る行動の評価ではありません！
道徳科の授業における**学習状況の評価**です。



Q1 大きくりなまとまりを踏まえた評価とは？

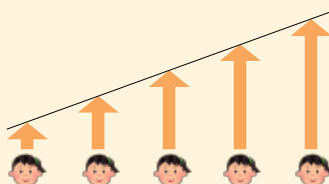
A1 道徳科の評価は、一つ一つの内容項目ごとに評価するのではなく、学期や学年など**一定の時間的なまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価**していきます。ただし、一定の時間的なまとまりの中で評価した結果として、特によさが発揮された授業について、評価の中で触れるということは考えられます。大切なのは、一回の授業の学習状況のみを取り上げて評価をしないということです。

年間や学期(例:1学期12回の授業)

第1回	第2回	第3回	第4回
第5回	第6回	第7回	第8回
第9回	第10回	第11回	第12回

発言や記述等のよさが発揮されたときの様子を評価する

第1回 第2回 第3回 第4回 第5回



発言や記述等が徐々に成長していく様子を評価する

【評価の記述例】

- 読み物教材の登場人物を自分自身と重ね合わせ、これまでの経験や考え方を基に自分の意見を発表することができました。
- 「規則の尊重」に関する学習では、自分と違う立場や考え方を理解し、よりよく行動するために大切な心のもち方について、自分なりの考えを書いていました。

Q2 何を評価したらいいの？

A2 道徳科の授業において次のことを重視して評価します。

より**多面的・多角的な見方へと発展しているか**

- 判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- 自分と違う意見や立場を理解しようとしている 等

道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めているか**

- 自らの生活や考えを見直している
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え、考えようとしている 等

正しいことを
思ったことも、
行っただけでも、
いろいろな考え
があるんだなあ。
私だったら...



Q3 どうやって評価するの？

A3 道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれを分けて観点別に評価するのではなく、児童生徒が道徳的価値の理解を深める姿を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で表現します。

授業時の観察記録や
発言記録を残しておく



ワークシートを蓄積した
ファイルや道徳ノートを
活用し、振り返りの記述等
から考えの深まりを見取る

内容項目の一覧

内容項目は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の基本となるものです。それぞれの内容項目の系統性や特質及び児童生徒の小中9年間の発達の段階等を全体にわたって理解しておく必要があります。

	小学校1・2年		小学校3・4年		小学校5・6年		中学校	
A 主として自身に 関するもの	(1)	善悪の判断,自律, 自由と責任	(1)	善悪の判断,自律, 自由と責任	(1)	善悪の判断,自律, 自由と責任	(1)	自主,自律, 自由と責任
	(2)	正直,誠実	(2)	正直,誠実	(2)	正直,誠実		
	(3)	節度,節制	(3)	節度,節制	(3)	節度,節制	(2)	節度,節制
	(4)	個性の伸長	(4)	個性の伸長	(4)	個性の伸長	(3)	向上心,個性の伸長
	(5)	希望と勇気, 努力と強い意志	(5)	希望と勇気, 努力と強い意志	(5)	希望と勇気, 努力と強い意志	(4)	希望と勇気, 克己と強い意志
					(6)	真理の探究	(5)	真理の探究,創造
B 主として人との 関わりに関するもの	(6)	親切,思いやり	(6)	親切,思いやり	(7)	親切,思いやり	(6)	思いやり,感謝
	(7)	感謝	(7)	感謝	(8)	感謝		
	(8)	礼儀	(8)	礼儀	(9)	礼儀	(7)	礼儀
	(9)	友情,信頼	(9)	友情,信頼	(10)	友情,信頼	(8)	友情,信頼
			(10)	相互理解,寛容	(11)	相互理解,寛容	(9)	相互理解,寛容
C 主として集団や社会 との関わりに関するもの	(10)	規則の尊重	(11)	規則の尊重	(12)	規則の尊重	(10)	遵法精神,公徳心
	(11)	公正,公平,社会正義	(12)	公正,公平,社会正義	(13)	公正,公平,社会正義	(11)	公正,公平,社会正義
	(12)	勤労,公共の精神	(13)	勤労,公共の精神	(14)	勤労,公共の精神	(12) (13)	社会参画,公共の精神 勤労
	(13)	家族愛, 家庭生活の充実	(14)	家族愛, 家庭生活の充実	(15)	家族愛, 家庭生活の充実	(14)	家族愛, 家庭生活の充実
	(14)	よりよい学校生活, 集団生活の充実	(15)	よりよい学校生活, 集団生活の充実	(16)	よりよい学校生活, 集団生活の充実	(15)	よりよい学校生活, 集団生活の充実
	(15)	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(16)	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(17)	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(16) (17)	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度 我が国の伝統と文化の 尊重,国を愛する態度
	(16)	国際理解,国際親善	(17)	国際理解,国際親善	(18)	国際理解,国際親善	(18)	国際理解,国際貢献
D 主として生命や自然、 崇高なものとの 関わりに関するもの	(17)	生命の尊さ	(18)	生命の尊さ	(19)	生命の尊さ	(19)	生命の尊さ
	(18)	自然愛護	(19)	自然愛護	(20)	自然愛護	(20)	自然愛護
	(19)	感動,畏敬の念	(20)	感動,畏敬の念	(21)	感動,畏敬の念	(21)	感動,畏敬の念
					(22)	よりよく生きる喜び	(22)	よりよく生きる喜び
項目数	19項目		20項目		22項目		22項目	

※学年の区分は、義務教育学校の該当学年を含む

道徳科 授業づくりのポイント

道徳科の授業構想時や互見授業,校内研修の際に,チェックしてみましょう。

授業づくりのポイント		チェック
導入段階	① 学習指導要領解説や年間指導計画に基づいたねらいを設定していますか?	
	② 主題に対する問題意識や教材の内容への興味・関心をもたせていますか?	
展開段階	③ 児童生徒が理解できるような教材提示の工夫が行われていますか?	
	④ 考える必然性や切実感のある発問になっていますか?	
	⑤ 児童生徒は,自分の考えをもつことができますか?	
	⑥ 児童生徒一人一人の考え方や感じ方を交流する場面がありますか?	
	⑦ 交流活動や表現活動等を行う場面では,活動の意図を明確にしていますか?	
	⑧ 児童生徒の発言を適切に取り上げたり,つないだりしていますか?	
	⑨ 思考を深める手掛かりとなる効果的な板書構成になっていますか?	
終末段階	⑩ 児童生徒に目標設定や決意表明を迫ったり,望ましい行為や行動を押し付けたりするようなまとめをいませんか?	
	⑪ ねらいとする道徳的価値に対して,児童生徒一人一人が自分なりの思いや考えを振り返り,整理することができますか?	

今日の授業では,児童生徒が
自分との関わりで多面的・多角的に
考えたり議論したりする姿が見られたかな?



参考ホームページ

■ 大分市教師用道徳指導資料集「小学校編」「中学校編」

大分市 道徳資料 [検索](#)

■ 大分市教育センターT-LABO

大分市教育センター [検索](#)

■ 文部科学省 道徳教育アーカイブ

道徳アーカイブ [検索](#)

名前